

(トップページ:<http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(ブログ「石油と中東」:https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943)

マイライブラリー:0513

(注)本稿は2020年8月31日から9月5日まで4回に分けて「ブログ・石油と中東」に掲載したレポートをまとめたものです。

2020.9.7

前田 高行

メジャーズに比べ傷の浅かった ENEOS と出光興産:2020年4-6月期業績比較

<u>目次</u>	<u>頁</u>
はじめに	1
1. 2020年4-6月期業績比較	2
2. 過去1年間の四半期業績の推移	4

はじめに

国内1位、2位の石油企業 ENEOS ホールディングス(6月に JXTG から社名変更、以下 ENEOS)と出光興産(以下 出光)の2020年4-6月期決算が相次いで発表された。

以下は ENEOS 及び出光の決算短信の中から売上高、純利益、売上高利益率、上流部門利益及び下流部門利益を取り上げ、国際石油企業メジャー5社(Shell, ExxonMobil, BP, Total 及び Chevron、以下メジャーズ)と比較したものである。

通貨については日本企業2社の決算は円建てであるため、各社の決算付属資料に示された為替レートで換算したドル建て表示で比較した。

メジャー五社、ENEOS、出光興産の詳細な決算資料は下記の各社ホームページをご覧ください。

ExxonMobil:

https://corporate.exxonmobil.com/News/Newsroom/News-releases/2020/0731_ExxonMobil-reports-results-for-second-quarter-2020

Shell:

<https://www.shell.com/media/news-and-media-releases/2020/second-quarter-2020-results-announcement.html>

BP:

<https://www.bp.com/en/global/corporate/news-and-insights/press-releases/second-quarter-2020>

[0-results.html](#)

Total:

<https://www.total.com/media/news/press-releases/second-quarter-2020-results>

Chevron:

<https://www.chevron.com/stories/chevron-announces-second-quarter-2020-results>

ENEOS ホールディングス:

<https://www.hd.eneos.co.jp/ir/library/statement/>

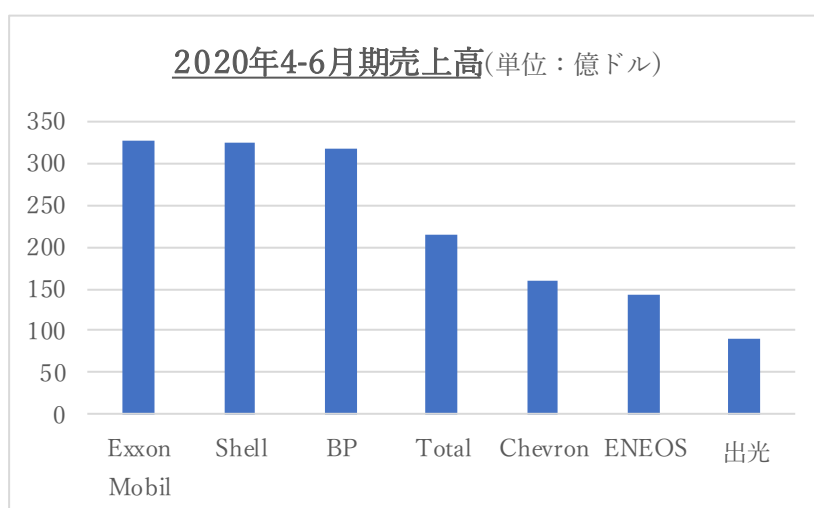
出光興産:

<https://www.idss.co.jp/content/100032125.pdf>

1. 2020年4-6月期業績比較(末尾表 1-D-4-26 参照)

(Chevron に並ぶ ENEOS の売上高！)

(1) 売上高



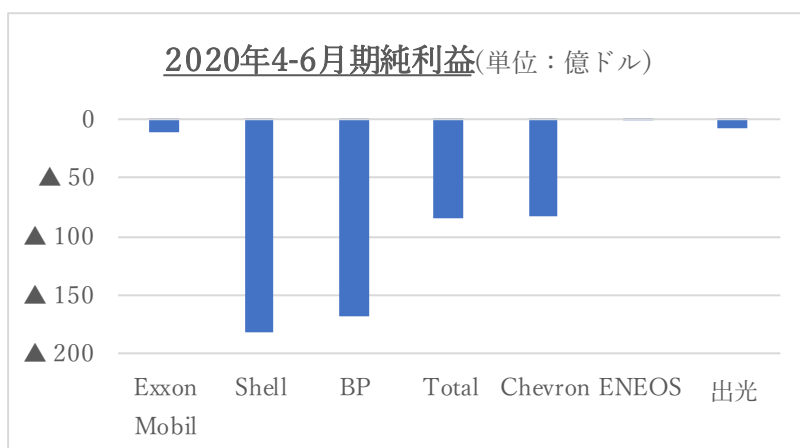
2020年4-6月期の ENEOS の売上高は1兆5,460億円、出光は9,830億円であった。これを ENEOS は1ドル=108円、出光は1ドル=107.6円で換算すると(換算レートは各社の決算説明資料から引用、以下同様)、ENEOS は143億ドル、出光は91億ドルとなる。

これに対してメジャーズ5社の同期間の売上高は最も多い ExxonMobil が326億ドル、ついで Shell 325億ドル、BP 317億ドル、Total 216億ドル、Chevron 159億ドルである。ENEOS は ExxonMobil、Shell 或いは BP の4割強であるが、Chevron とほぼ並んでいる。出光は比較した6社の中では唯一100億ドルを下回っており、ExxonMobil など上位3社の3割弱である。

(赤字幅が最も小さかった日系2社！)

(2) 純利益

今期は6社とも赤字であったが、特に Shell、BP の2社はそれぞれ▲181億ドル、▲168億ドルの大幅な欠損を計上、Total 及び Chevron も▲80億ドル強の赤字であった。メジャーズの中で ExxonMobil だけは▲11億ドルと言う小幅なマイナスにとどまった。

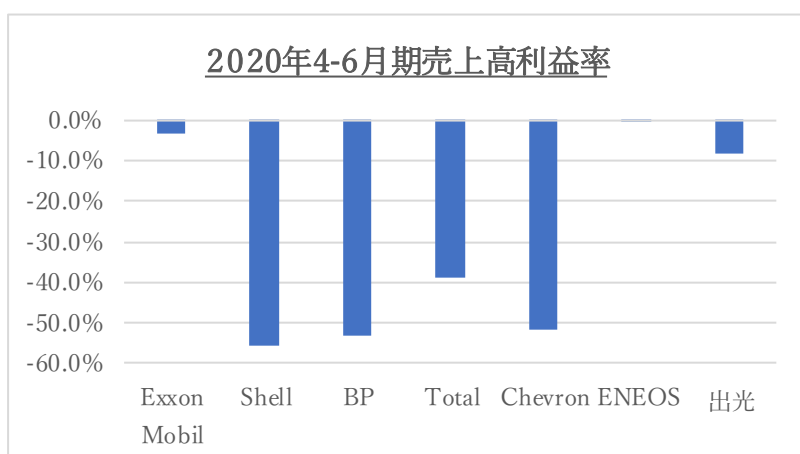


これらメジャー5社に比べ ENEOS は▲49億円(▲4,500万ドル)、出光は▲813億円(▲7.6億ドル)であり、赤字幅はメジャーズに比べ少なく済んでいる。今期は油価が大幅に下落し、またコロナ禍の影響で需要が大きく落ち込み、メジャーズ5社は価格と需要の両面で大きな痛手を

被った。これに対して ENEOS 及び出光は需要減の影響は受けたものの、ガソリンなどの製品価格が原油価格を後追いする形での価格転嫁及び一定の利幅が認められており、4-6月の油価急落の直撃を免れたことにより利益の減少幅がメジャーズよりも小さかったためと考えられる。

(7社中損失率が最少にとどまった ENEOS !)

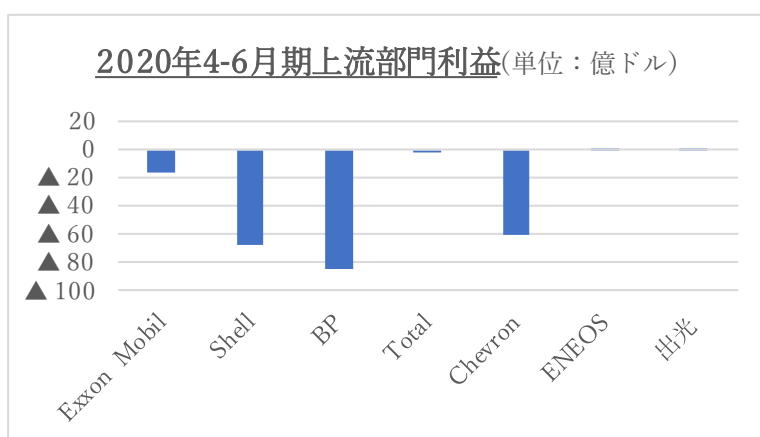
(3) 売上高利益率



売上高利益率を比べてみると、Shell、BP、Chevron はそれぞれ▲55.8%、▲53.2%、▲51.3%と最悪のレベルであった。Total も▲38.8%であり、メジャーズ5社の中で唯一 ExxonMobil が一桁台の損失率(▲3.3%)にとどまっている。出光の売上高利益(損失)率は▲8.3%で

ExxonMobil より若干悪い。これに対して ENEOS は▲0.3%であり、比較した7社の中では最も良い。

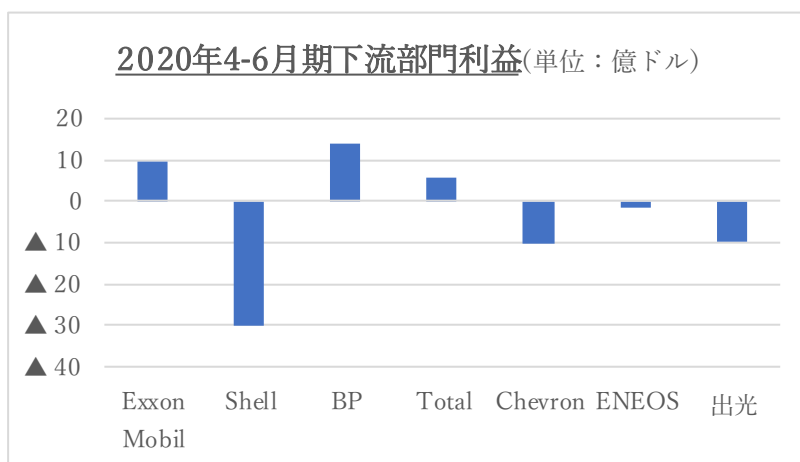
(4) 上流部門の利益



メジャーズ5社の上流部門はすべてマイナスであった。最も損失が大きかったのは BP の▲85億ドル、これに次ぐのが Shell(▲67億ドル)、Chevron(▲61億ドル)であり、5社中で損失が最も少なかった Total も2億ドルの赤字であった。これに対して ENEOS 及び出光は金額は少ないものの利益を計上している

(ENEOS 7百万円、出光 3千万円)。BP は今後探鉱開発投資を減らし原油生産量を下方修正するなど、メジャー各社はこれまでの石油・天然ガスへの依存から脱却する方針を打ち出している。

(5) 下流部門の利益 (図 <http://menadabase.maeda1.jp/2-D-5-14.pdf> 参照)



7社の4-6月の下流部門損益は明暗が分かれ、3社が利益を、4社が損失を計上している。ENEOS、出光の日系2社はいずれもマイナスであり、出光は▲1,038億円(▲9.7億ドル)、ENEOSも▲184億円(1.7億ドル)の損失を出している。メジャーではBP、ExxonMobil及びTotalの3社が黒字であった。但し

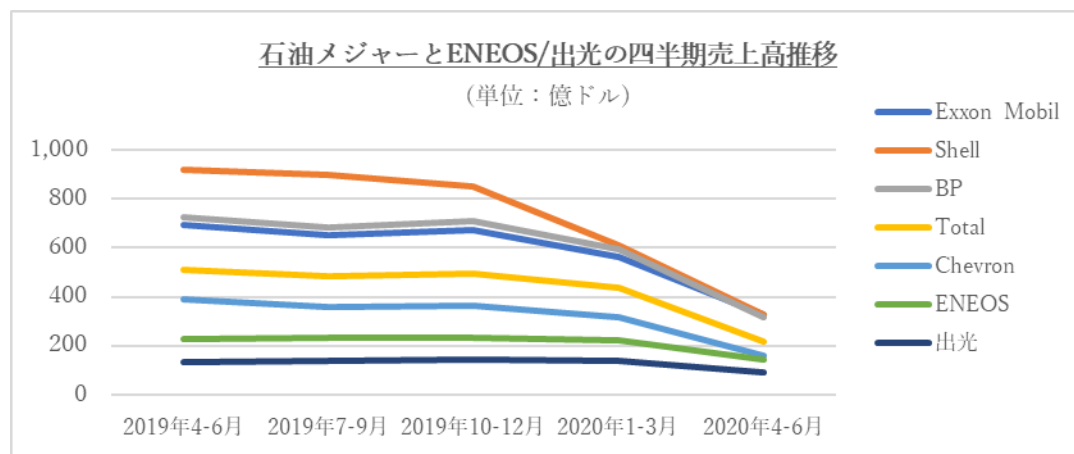
利益額は最も多いBPでも14億ドルにとどまっている。ExxonMobil、Totalの利益額はそれぞれ10億ドル及び6億ドルであった。

2. 過去1年間の四半期業績の推移

ここでは2019年4-6月期から2020年4-6月期までの各四半期の業績推移を検証する。なお冒頭にも述べた通りメジャーズは毎年1-3月を第1四半期として四半期毎に業績を開示、1-12月を年間決算としているのに対し、ENEOS及び出光は年度決算(4月-翌年3月)である。従って例えば今年2020年4-6月はメジャーでは第2四半期であるが、邦系2社は2021年第1四半期となる。

また邦系2社の各四半期決算は前四半期までの年度間の累計で表示され、3か月間の期間数値は示されていない。このためここでは前回と今回の四半期決算の差額を当該四半期3か月間の期間数値としてメジャーズと比較している。

(1) 売上高

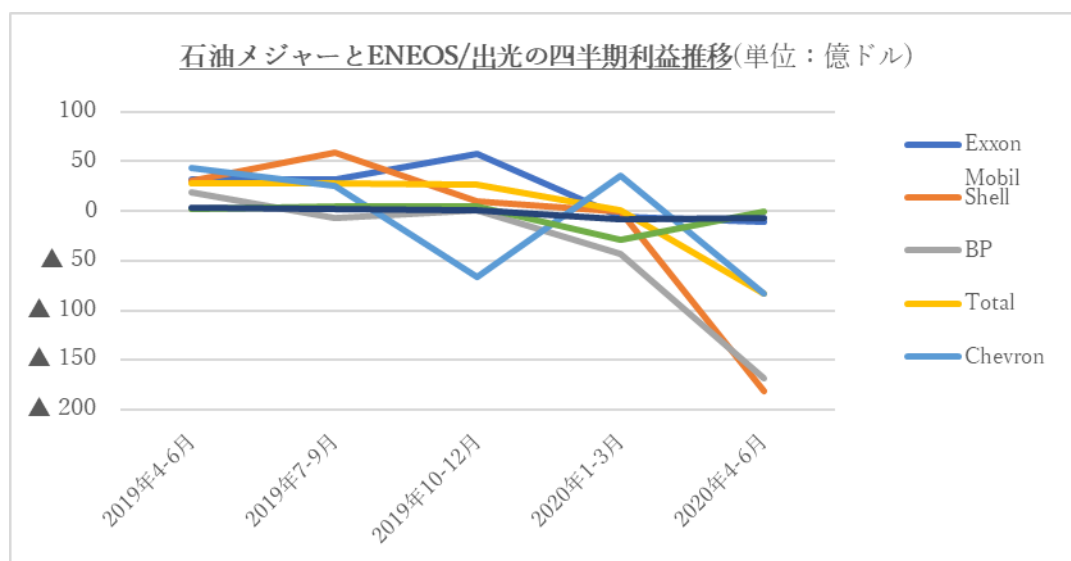


2019年4-6月期の売上高は Shell が918億ドルで最も多く、次いで BP および ExxonMobil が700億ドル前後で並んでいる。4位以下は Total(512億ドル)、Chevron(389億ドル)、ENEOS229億ドル)、出光(134億ドル)と続いている。ENEOS はトップ Shell の4分の1、出光は7分の1の規模である。

7社の売上順位は1年間を通じてほぼ変わらない。売上高は昨年末までなだらかな下降線をたどっていたが、今年1-3月期にメジャー上位3社の売上が急減、さらに4-6月期には Total、Chevron を含めメジャーズ全社の売上げが急落している。この結果、2020年4-6月期は ExxonMobil 326億ドル、Shell 325億ドル、BP 317億ドルと上位3社が一線に並び、Total 216億ドル、Chevron は5社中で最も少ない159億ドルにとどまっている。過去一年間で Shell の売上高は3分の1近くに、またその他メジャー各社も2分の1に減少している。

ENEOS の売上高も前年4-6月期の229億ドルが、今期は143億ドルと4割近く減少、出光も134億ドルから3割減の91億ドルになっているが、メジャー5社にくらべ減少の幅は小さい。前年同期は ENEOS の売上高はメジャーで最も少ない Chevron の6割にとどまっていたが、今期は格差が縮まり Chevron と変わらない売上高となっている。

(2) 純利益 (図 <http://menadabase.maeda1.jp/2-D-5-21.pdf> 参照)

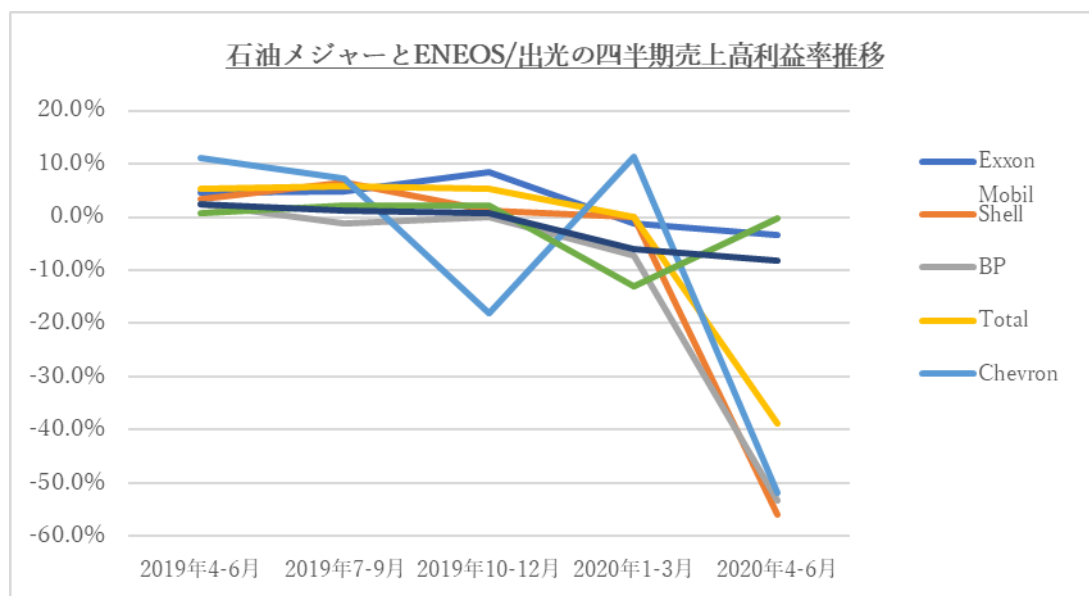


過去1年間、各社とも利益は大きく変動しており、今年1-3月期までの各期の利益トップ企業は、Chevron→Shell→ExxonMobil→Chevron と每期入れ替わっている。また昨年4-6月期は全社で利益を計上していたが、今年1-3月期には BP、ExxonMobil、Shell が欠損を出し、Total も3,400万ドルのわずかな利益にとどまり、いずれも業績が悪化した。

そして今期はさらに業績が落ち込みメジャー5社のすべてが欠損を計上、特に Shell、BP のマイナス額はそれぞれ▲181億ドル、▲168億ドルに達している。Total と Chevron も80億ドル強の赤字決算であり、ExxonMobil のみが▲11億ドルという比較的少ないマイナスで済んでいる。

これに対して ENEOS 及び出光の過去1年間の利益の推移を見ると、ENEOS は2億ドル(‘19 4-6 月期)→5億ドル→5億ドル→▲29億ドル→▲4, 500万ドル(’ 20 4-6 月期)となっており、2020年 1-3月期に大きく落ち込んだもののメジャーズ各社に比べ振幅は小さい。出光の場合は3億ドル (‘19 4-6 月期)→2億ドル→1億ドル→▲8億ドル→▲8億ドル(’ 20 4-6 月期)とここ2期は連続して マイナスであるが、他社に比べると傷は浅い。日系2社の利益状況がメジャーズと比べ比較的平坦 に推移しているのは、原油価格の変動をガソリンなどの製品価格に転嫁することが認められ下流部 門が安定した収益を確保できる制度に守られているからである。と同時に上流部門(石油・天然ガス の開発生産)がメジャーに比べて極めて小さく、原油価格の変動による巨額の機会利益(あるいは損 失)がないためである。

(3) 売上高利益率

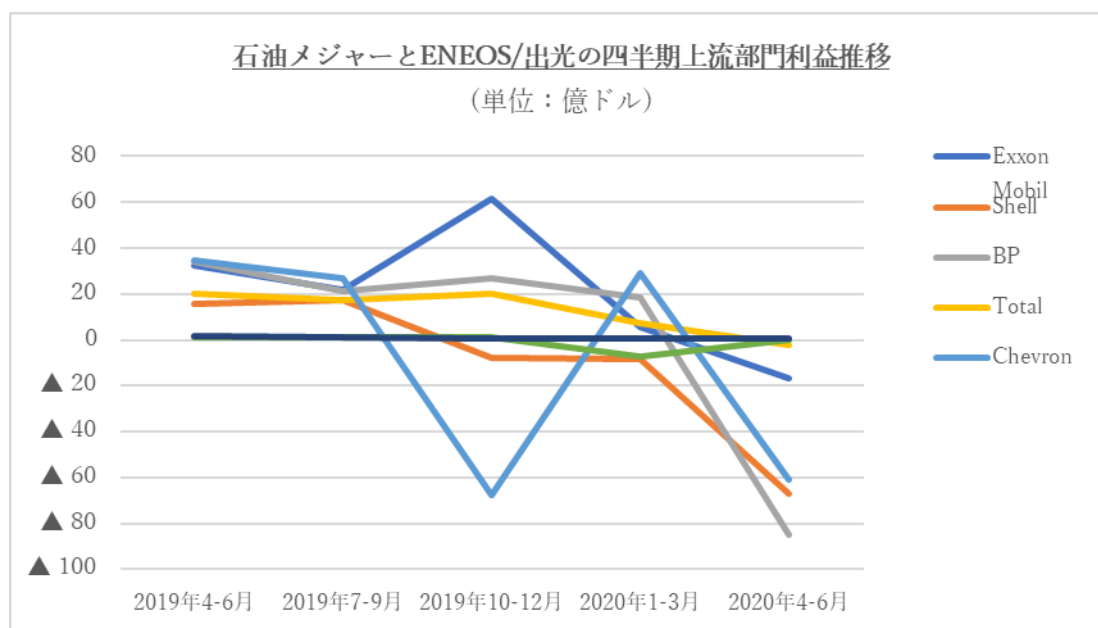


2019年4-6月期の売上高利益率は Chevron が最も高い11.1%であり、これに次ぐ Total(5.4%)、ExxonMobil(4.5%)の2倍以上であった。日系企業の出光は2.4%、ENEOS は0.7%であり、メジャーズ5社のいずれよりも低い。その後メジャー各社の利益率は押しなべて前期を下回るか マイナスとなることもあり、特に今期は Shell、BP、Chevron3社が▲50%台の大きな損失率となっている。ENEOS、出光の2社は昨年末まで每期2%以下の低い利益率にとどまり、今年に入ってから は2期連続でマイナスの利益率となっている。

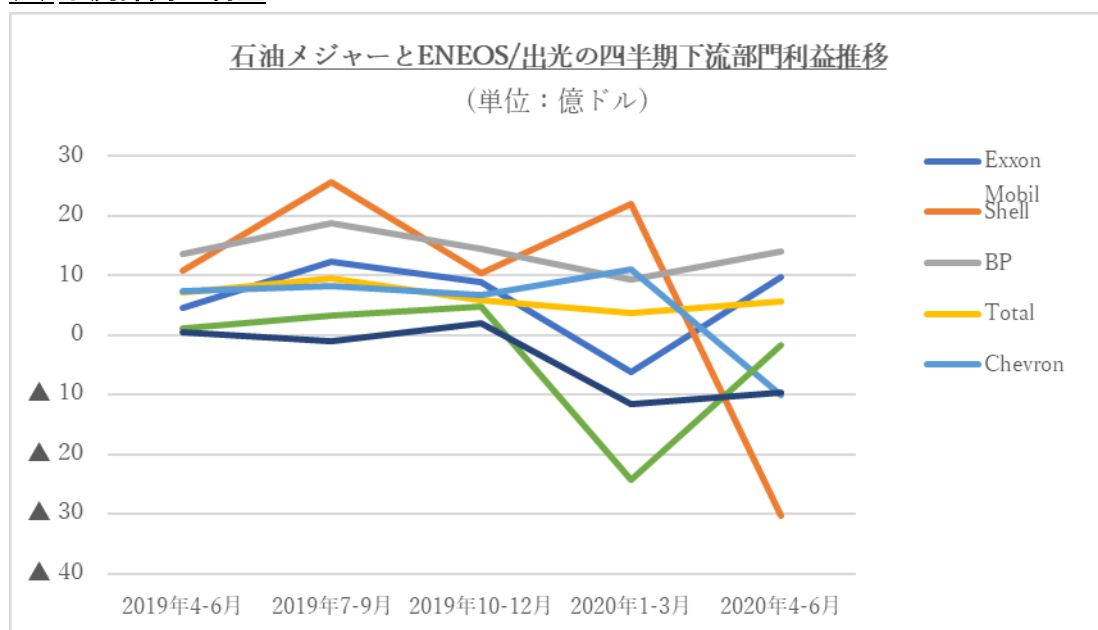
(4) 上流部門の利益

昨年4-6月期と7-9月期のメジャー5社の上流部門の利益は ExxonMobil、BP 及び Chevron 3社はほぼ横並びの30億ドル前後で推移し、ShellとTotal2社は共に20億ドル弱であったが、昨年10-12月及び今年1-3月の上流部門の利益は各社によって大きく変動している。10-12月期は ExxonMobil の利益が大幅に増加、BP 及び Total もわずかながら増益となったのに対し、Chevron は大幅な減益、Shell も欠損に転落し明暗が分かれた。そして今期は全社がマイナスに陥り、欠損額も BP85億ドル、Shell67億ドル、Chevron61億ドルと巨額な損失を出している。日系2社は上流部門が小さいため利益幅も小さいが、ENEOS が今年1-3月期に▲7億ドルの欠損を出した以外、

両社ともわずかではあるが1億ドル前後の利益を計上しておりメジャー5社とは異なる結果を出している。



(5) 下流部門の利益



昨年から今年初めまでの各社の上流・下流の損益幅を見ると、上流部門はプラス60億ドル(ExxonMobil10-12月期)から▲85億ドル(BP 今年4-6月期)まで大きな差があるのに比べ、下流部門はプラス26億ドル(Shell 昨年7-9月期)から▲30億ドル(同 Shell 今年4-6月期)まで差異はそれほど大きくない。

このような中、各社で比較的下流部門の利益が高く安定しているのは Total あるいは BP であり、毎期4~19億ドル前後の利益を計上している。ExxonMobilは下流部門の利益が安定せず今年の1-3月期は赤字である。日系2社のうち ENEOS は昨年末まで数億ドル規模の利益を計上していたが、今年の第1及び第2四半期は連続して赤字となっている。出光の下流部門は経常的な赤字体質で

あり、5四半期のうち3期は欠損を出し、特に今年の第1、第2四半期は連続して10億ドルを超える赤字となっている。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

国際石油企業(IOC)と ENEOS & 出光興産の四半期業績比較(2019年4月～2020年6月)

(単位:百万ドル)

		Exxon Mobil	Shell	BP	Total	Chevron
売上高	2019年4-6月	69,091	91,838	72,676	45,202	36,323
	2019年7-9月	65,049	89,541	68,291	48,589	36,116
	2019年10-12月	67,173	85,066	71,109	49,280	36,350
	2020年1-3月	56,158	60,959	59,650	38,577	29,705
	2020年4-6月	32,605	32,491	31,676	21,562	15,926
純利益	2019年4-6月	3,130	2,998	1,822	2,756	4,305
	2019年7-9月	3,170	5,879	▲ 749	2,800	2,580
	2019年10-12月	5,690	965	19	2,600	▲ 6,610
	2020年1-3月	▲ 610	▲ 24	▲ 4,365	34	3,599
	2020年4-6月	▲ 1,080	▲ 18,131	▲ 16,848	▲ 8,369	▲ 8,270
売上高利益率	2019年4-6月	4.5%	3.3%	2.5%	6.1%	11.9%
	2019年7-9月	4.9%	6.6%	-1.1%	5.8%	7.1%
	2019年10-12月	8.5%	1.1%	0.0%	5.3%	-18.2%
	2020年1-3月	-1.1%	0.0%	-7.3%	0.1%	12.1%
	2020年4-6月	-3.3%	-55.8%	-53.2%	-38.8%	-51.9%
上流部門利益	2019年4-6月	3,261	1,435	3,413	2,022	3,483
	2019年7-9月	2,168	1,722	2,139	1,734	2,704
	2019年10-12月	6,137	▲ 787	2,678	2,031	▲ 6,734
	2020年1-3月	536	▲ 863	1,871	703	2,920
	2020年4-6月	▲ 1,651	▲ 6,721	▲ 8,487	▲ 209	▲ 6,089
下流部門利益	2019年4-6月	451	1,299	1,365	715	729
	2019年7-9月	1,230	2,574	1,883	952	828
	2019年10-12月	898	1,037	1,438	580	672
	2020年1-3月	▲ 611	2,211	921	382	1,103
	2020年4-6月	976	▲ 3,023	1,405	575	▲ 1,010

国際石油企業(IOC)と ENEOS & 出光興産の四半期業績比較(2019年4月～2020年6月)

(単位:百万ドル)

				換算率(円/ドル)		百万円	
		ENEOS	出光	ENEOS	出光	ENEOS	出光
売上高	2019年4-6月	22,862	13,433	110.0	109.9	2,514,844	1,476,314
	2019年7-9月	23,378	14,031	109.0	108.6	2,548,225	1,523,717
	2019年10-12月	23,341	14,357	109.0	108.7	2,544,128	1,560,642
	2020年1-3月	22,060	13,663	109.0	108.7	2,404,577	1,485,177
	2020年4-6月	14,317	9,134	108.0	107.6	1,546,194	982,826
純利益	2019年4-6月	158	327	110.0	109.9	17,387	35,989
	2019年7-9月	492	157	109.0	108.6	53,651	17,073
	2019年10-12月	491	109	109.0	108.7	53,515	11,865
	2020年1-3月	▲ 2,867	▲ 808	109.0	108.7	▲ 312,499	▲ 87,862
	2020年4-6月	▲ 45	▲ 756	108.0	107.6	▲ 4,881	▲ 81,339
売上高利益率	2019年4-6月	0.7%	2.4%	-	-	-	-
	2019年7-9月	2.1%	1.1%	-	-	-	-
	2019年10-12月	2.1%	0.8%	-	-	-	-
	2020年1-3月	-13.0%	-5.9%	-	-	-	-
	2020年4-6月	-0.3%	-8.3%	-	-	-	-
上流部門利益	2019年4-6月	120	147	110.0	109.9	13,223	16,154
	2019年7-9月	106	95	109.0	108.6	11,603	10,291
	2019年10-12月	141	74	109.0	108.7	15,318	8,033
	2020年1-3月	▲ 724	67	109.0	108.7	▲ 78,945	7,300
	2020年4-6月	7	30	108.0	107.6	704	3,215
下流部門利益	2019年4-6月	118	47	110.0	109.9	13,025	5,211
	2019年7-9月	332	▲ 99	109.0	108.6	36,150	▲ 10,744
	2019年10-12月	481	205	109.0	108.7	52,419	22,331
	2020年1-3月	▲ 2,425	▲ 1,161	109.0	108.7	▲ 264,360	▲ 126,164
	2020年4-6月	▲ 171	▲ 965	108.0	107.6	▲ 18,433	▲ 103,803